

I-27

東日本大震災復興を契機とした、地域の固有性・多様性に応答した地域再生の試み  
 ～宮城県石巻市雄勝町における、地域・大学連携による高台移転と復興住宅の計画～  
 その5 高台移転・波板

The trial of the local reproduction which answered the endemism and the diversity of the area beginning of the  
 Great East Japan Earthquake revival

-The plan of the move to a higher elevation and revival residencies which made by the local government  
 (Ogatsu Cho, Ishinomaki, Miyagi) and the association of some Universities -

#5 The move to higher ground of Namiita

○蔵藤勲<sup>1</sup>, 朝倉亮<sup>1</sup>, 藤本陽介<sup>1</sup>, 佐藤光彦<sup>2</sup>, 山中新太郎<sup>2</sup>

\*Isao Kurafuji<sup>1</sup>, Ryo Asakura<sup>1</sup>, Yousuke Fujimoto<sup>1</sup>, Mitsuhiro Sato<sup>2</sup>, Shintaro Yamanaka<sup>2</sup>

1. 波板地区について

1-1. 地区の概要

波板地区は雄勝中心市街地より南東 5km に位置し、浜の中央に国道 398 号線が通る。被災前、23 世帯(51 人)が生活していた小さな浜であるが、綺麗な海水浴場があり、良質な玄晶石が採れることからスレートの産地として知られる。石工が途絶えた今は農業を中心に、山や海で必要な分の食料を採取する自給自足に近い生活をしている。その一方で、椎茸栽培や果樹の栽培に力を入れ、若者が波板に住み、仕事を営んでいくための下地作りが模索されている。

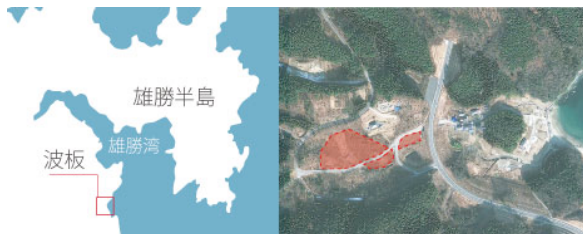


fig. 1-1 波板の位置・高台移転地

1-2. 玄晶石

雄勝には玄晶石の鉱脈があり、古くから硯の原材料として有名である。他にもスレートに加工して屋根や外壁に用いたり、階段や石畳として住宅周りに一般的に用いられており、それらの加工も現地の職人が行っていた。波板には採石場があり、現在操業は行われていないが、採石場跡地は玄晶石の端材を積み重ねた石垣が残る。



fig. 1-2 採石場跡地、さまざまな形に加工されたスレート

2. 被害状況

波板地区は先の東日本大震災により、高さ 11m の津波に襲われ、海岸近くの低地にあった住宅は流出してしまった。意向調査の結果、高台移転地での生活を希望するのは 12 戸であり、内訳は自力建設 3 戸、公営住宅 8 戸、集合住宅 1 戸である。

■ 住居 ■ 憩乃家 ■ 神社 — 浸水ライン

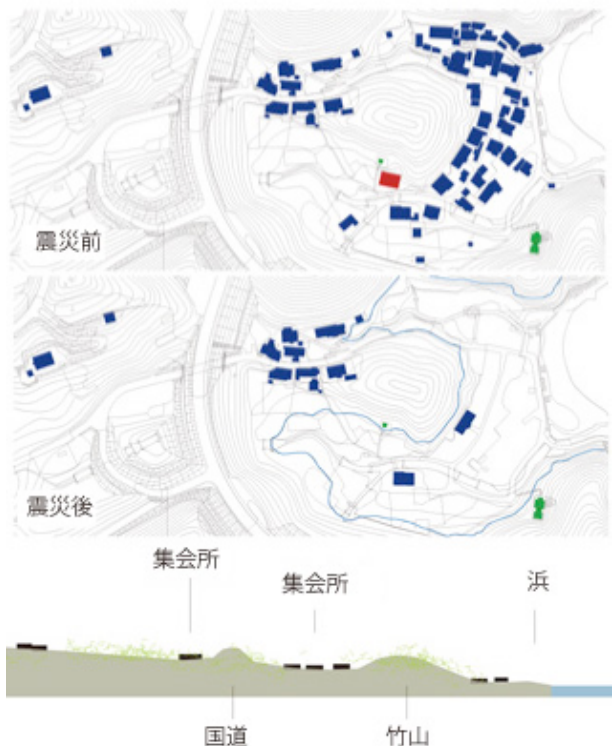


fig. 3 被災状況

3. 移転地の特徴

高台移転候補地は北側に山を背負い南東に開かれた土地であり、現在は畑として利用されている。移転計画地から海を望むことはできないが、勾配が 5~10% の緩やかな敷地全体に樹木が生い茂り、クリ、ウメ、アズミ、グミ、カキ等の果樹多い。中央には小川が流れ、

自然豊かな環境である。

#### 4. 高台移転の計画

##### a. 緩やかな傾斜地を生かして住宅を建てる

計画地を造成するにあたり、切土量は建設費用の他、建設期間に大きな影響を及ぼしてしまう。計画敷地の購買が緩やかな波板ではより、切土量が少なるよう、自然の勾配をもとに、住宅の位置を決定した。

##### b. 既存の樹木・小川を活かした配置を行う

移転地はさまざまな樹種の木が生えている。その中から集落のシンボルとなる大きな樹木と各家のシンボルとなる樹木を選び、それを避けながら住戸の敷地を決定する。



Fig. 4-2 既存樹木と小川

##### c. 波板の生活習慣にあった住宅周りを計画する

波板では農作業を中心とした自給自足に近い生活が行われてきており、今回の計画でもそれぞれの宅地に畑を設けている。それらで収穫された食材は勝手口に併設された屋外の水屋で泥を落とし、屋外とシームレスに繋がった土間台所で調理を行う。

##### d. 視線の抜けを考慮し、住宅を配置する

計画地の勾配、植物や小川の配置などから決めた場所に住戸を配置する。住戸が並列にならないよう角度を振り、住宅の位置が確定した段階で、敷地境界線と取付道路の位置を決定する。

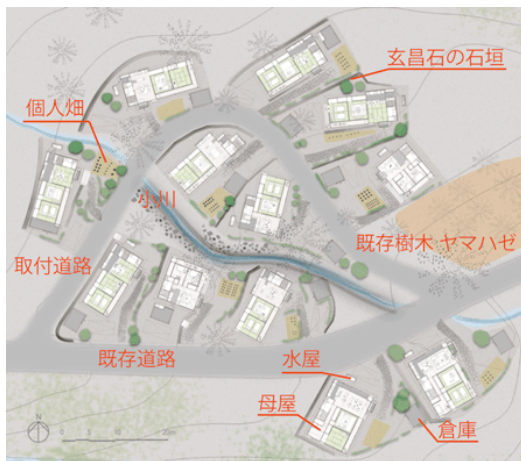


fig. 4-3 高台移転地配置図

#### 5. 集会所の計画

集会所は海岸と高台移転候補地との中間地点に計画される。分棟形式にすることによって、会合だけでなく学生とのWSや、巡回型の公共サービスの提供、宿泊などの機能を同時に行なえ、外観の上でも新しい集落と既存集落を繋ぐ場所となることを目指している。

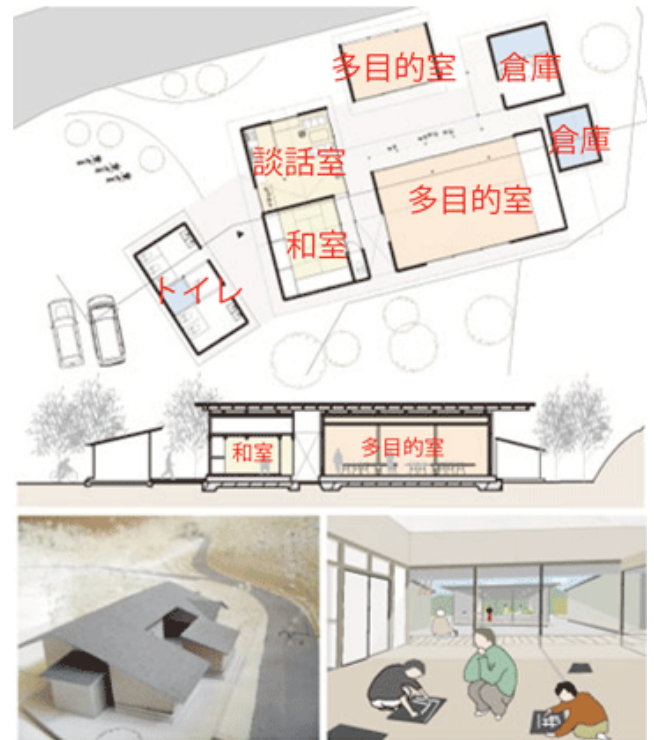


fig. 5 集会所平面図、断面図、外観、内観

#### 6. 総括

本研究では波板の農作業を中心とした自給自生活に合わせた高台移転地の計画を行った。

波板と前述の名振、船越という3つの浜だけを比較しても、環境や生業で違いが見られ、画一的な造成や量産住宅が適していないことがわかる。地域ないしは更に小さな範囲での固有性を抽出し、設計に反映させることにより、生活が豊かになるだけでなく、場所の魅力を引き出すことにも繋がる。これらの考え方は高台移転の計画だけではなく、限界集落再生へ向けた研究としても可能性があると考えられる。

#### 参考文献

- [1] 雄勝支所 意向調査資料, 2012.
- [2] 波板地区防災集団移転促進事業計画書, 石巻市, 2012